

217

2024.5.19

長崎郵趣

十銭二宮尊徳貯金切手 伊藤純英



10銭二宮尊徳貯金切手の速達使用例

伊藤 純英

1941年7月1日発行の郵便貯金切手台紙に印刷された10銭二宮尊徳図案の切手であるが、この切手の特徴として、

- ① 第1次昭和切手の最後の発行 - 昭和15年2月1日20銭富士桜切手と第2次昭和切手の最初の発行 - 昭和17年4月1日5銭東郷切手、この中間にあたる昭和16年の発行という点。
- ② 新図案の印面が印刷されている。
- ③ 切手貯金使用者に台紙が返還されず、局内保存された。
- ④ 印面切り抜きは使用しないようにお願いが注意書きしてあるが、無効ではなかった。

という4点の特徴を持つ。

右のリーフはJAPEX2002に昭和切手を出品した際のリーフだが、第1次昭和切手と第2次昭和切手の橋渡しの年のトピックスとしてこの貯金切手と太平洋戦争の開始日のカットを入れたものである。

さて、貯金切手台紙には最下部に「注意」書きが一から四まで書かれているが、郵趣上重要な注意点は「四 本台紙に印刷の切手は他に使用しないでください」という注意書きである。

素直に読めば、この切手は貯金目的以外では使えないのだなと解釈するのが普通の人であろうと推定されるが、実際の運用では、郵便に使っても無効ではなく、普通に使用できたのである。当時の郵趣家でこのことを熟知してた大川如水をはじめとする数人がカバーを作って残したものが何通か存在している。ただ、どうしても高額の10銭という額面の性格上、特殊取り扱いの郵便物とならざるを得ず、ここに切り上げたように速達便が多い。他には書留便がある。さらに外国宛書状20銭料金にこの切り抜き切手を2枚貼ったものも存在する。国内郵便に使えた上に外国郵便まで使えたというのは普通の常

第1次昭和切手から第2次昭和切手へ

郵便貯金切手

1941（昭和16）.7.1発行

小額貯金の奨励を目的として切手貯金制度が復活し、前回の10銭切手を印刷した台紙が発行された。正式には、郵便貯金貯金台紙付10銭郵便切手と呼ばれ、印面を切り取って郵便に使うこともできた。戦争直前の発行であり、争国一揆で戦争への意に高揚するため、貨幣紋が実態になりつつある時期の発行で、二宮金次郎の図案が採用されている。



1941（昭和16）年12月8日

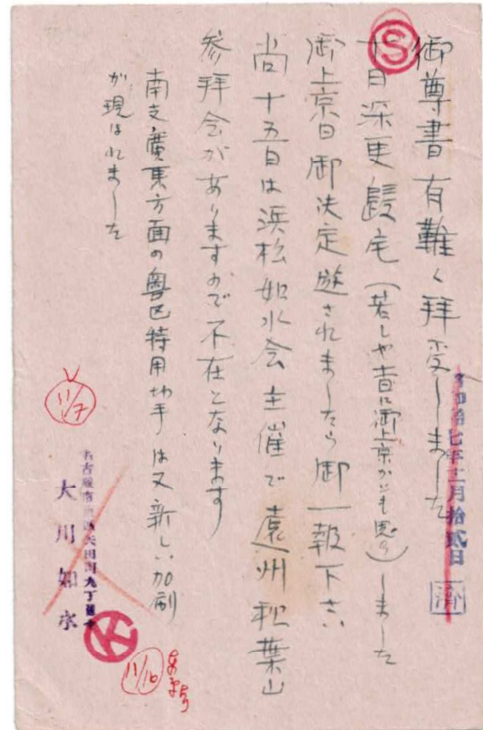


第五五番時

この日、太平洋戦争に突入した。第五五番時郵便局は、真珠湾攻撃の旗艦長門に設置された船内局である。

識人には思いもよらぬことであつたらう。

表紙の使用例は17年4月に料金に変更後に



速達料金12銭として、乃木2銭切手とともに葉書に加貼りしたものである。

抹消印

大曾根駅前 / 名古屋 / 17.11.11 / 后0 - 4

到着印

京都 / 名古屋 / 17.11.11 / 后8 - 12

のデータを持ち、即日到着している。

裏面も掲載するが、切手交換の私信のほか、新切手の情報も書いてある。差出は大川如水、受取人は小島勇之助。ともに著名な収集家である。

このアイテムは2月28日開催のスタンペディアオークションに出品されていたもので、普通切手との貼り合わせで一目見て気に入り、結果無事落札できたものである。このオークションは手数料が20パーセントだが、最低値が低く抑えられており、気軽に入札できる点が特徴である。場合によっては、その格安の最低値近くで落ちたりするので、手数料の分はカバーしてしまう。今回のセールでは小島勇之助宛のアイテムが多く出品されており、こういうものは出た時に買っておかないと入手できないのでぜひとも入手したいと応札した。同じく大川如水差出の貯金切手切り抜きカバーが出ていたので弱気の応札をしたら、なんとこちらまで落ちてきた。こちら裏面とともに掲載する。裏面には愛国貯金のシールまで貼られており、「この郵便物 お序の



時お返しください 保存用」のゴム印が押されているので、受取人から返還されて大川如水のもとで保管されたものと思われる。この切手の切り抜き使用はこのような国立公園切手（発売局限定プレミアム）との貼り合わせカバーが大半であり、その意味で表紙のカバーは得難いものでありナイスルッキングアイテムといえよう。

名古屋生田 / 17.9.11差出、翌日高山到着印。

『Nagasaki Reader』という長崎新聞社が発行するフリーペーパーに下記のような記事があったので掲載する。記事によると28年に移転完了なので、現在地での営業はあと4年ということになる。

企業・経済NEWS

長崎中央郵便局 尾上町へ移転

2028年度完了予定 現在地は道路拡幅



2028年度に尾上町へ移転予定の長崎中央郵便局。右側が拡幅される市道で、国道202号に通じている

長崎市の市道拡幅事業に伴い、長崎中央郵便局が現在の恵美須町から、JR長崎駅に近い尾上町の一面へ移転する。新局舎は2026年度に着工し、28年度に移転が完了する見込み。市は今年8月ごろ、日本郵便（東京）との間に用地買収や移転補償などに関する契約を結ぶ。拡幅されるのは、郵便局前と国道202号（旭大橋東口交差点）を結ぶ市道。桜町方面と旭大橋方面の行き来に便利だが、朝夕を中心に渋滞が発生し、歩道も狭い。市は改善のため、都市計画道路「大黒町恵美須町線」（延長1.10キロ）として32年度までの整備を目指す。道路幅は2倍超となる26メートルに広げ、現在の片側1車線から片側2.5車線に増やす。総事業費は59億6900万円。郵便局の移転先は、西九州新幹線とJR長崎線の高架線路に挟まれた約3300平方メートル。市の一長崎駅周辺土地区画整理事業で生じた土地で、売却益を事業費に充てるための「保留地」の一部。市によると、新局舎への移転は28年の予定。その後、おおむね29年度までに現局舎を解体し、30、32年度に道路改良工事を行う。